ANAホールディングス株式会社　説明会

2017年3月期　第3四半期 決算説明会

取締役 執行役員
平子　裕志

2017年1月27日

©ANAHD2017

目次

2016年度 第3四半期 決算

業績ハイライト	P. 3
連結決算概要	
経営成績	P. 4
財政状態	P. 5
キャッシュフロー	P. 6
セグメント別実績	P. 7
航空事業	
収入・費用	P. 9
営業利益増減要因	P. 10
国内旅客事業	P. 11-12
国際旅客事業	P. 13-15
国内貨物事業	P. 17
国際貨物事業	P. 19-21
LCC事業（バニラエア）	P. 23
航空事業以外のセグメント	P. 24
燃油・為替ヘッジの進捗状況	P. 25

補足資料

運用航空機数	P. 28
国際旅客 方面別実績（構成比）	P. 29
国際貨物 方面別実績（構成比）	P. 30

今年度より、貨物事業における代理店向けの「国際貨物販売手数料」を廃止したことから、収入と費用をネットしています。

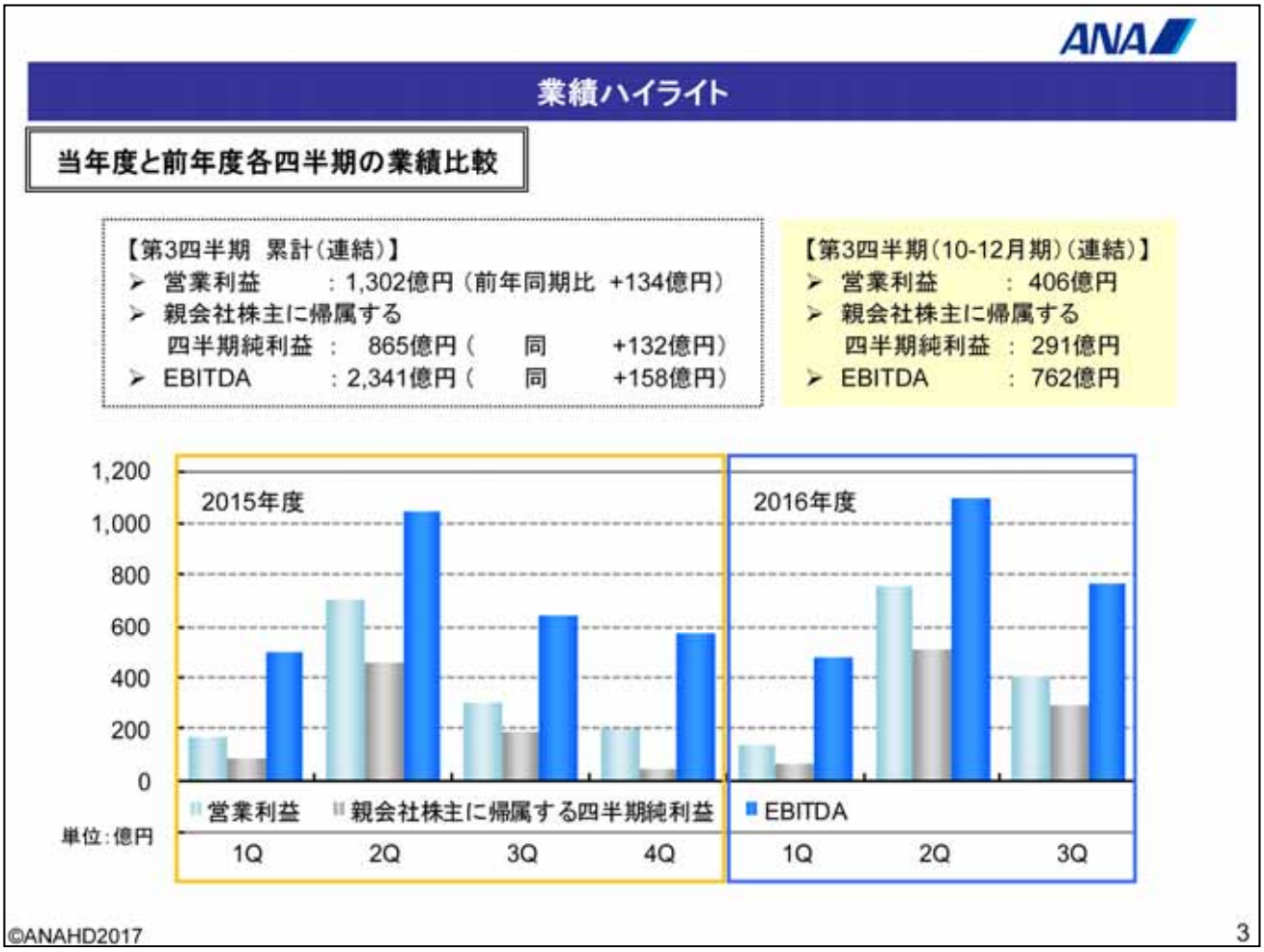
ディスクロージャー 2016年度 優良企業

©ANAHD2017

2

◎ 本日は、2017年3月期 第3四半期 決算説明の電話会議にご参加頂きまして、
誠に有難うございます。

◎ 最初に、スライドの3ページをご覧ください。



◎ 業績ハイライトです。

◎ 本ページには、四半期毎の業績推移をお示ししています。

◎ 第2四半期に続いて、第3四半期においても、増益を達成しました。

◎ 4ページをご覧ください。

連結決算概要

経営成績 単位:億円	FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年差	FY2016 第3四半期	前年差
売上高	13,690	13,317	△ 372	4,467	△ 110
営業費用	12,522	12,015	△ 507	4,061	△ 217
営業利益	1,167	1,302	+ 134	406	+ 106
営業利益率(%)	8.5	9.8	+ 1.2	9.1	+ 2.6
営業外損益	△ 45	△ 59	△ 14	1	+ 8
経常利益	1,121	1,242	+ 120	407	+ 115
特別損益	55	20	△ 35	18	△ 36
親会社株主に帰属する四半期純利益	733	865	+ 132	291	+ 97
当期純利益	737	868	+ 130	291	+ 96
その他包括利益	△ 340	568	+ 909	694	+ 810
包括利益	396	1,436	+ 1,040	985	+ 906

©ANAHD2017

◎ 連結決算の概要です。

◎ 売上高は、前年同期から372億円減少し、1兆3,317億円となりました。
営業費用は、507億円減少し、1兆2,015億円となりました。

◎ その結果、営業利益は134億円増加の1,302億円、
経常利益は120億円増加の1,242億円となり、
親会社株主に帰属する四半期純利益は、
前年同期から約2割増加の865億円となりました。

◎ 第3四半期累計の業績として、
過去最高となる営業利益、営業利益率、経常利益を達成しました。

◎ 5ページをご覧ください。

連結決算概要

財政状態　単位：億円

	FY2015 期末	FY2016 第3四半期末	前年度 期末差
総資産	22,288	22,611	+ 323
自己資本	7,898	9,173	+ 1,274
自己資本比率(%)	35.4	40.6	+ 5.1
有利子負債残高	7,038	7,267	+ 228
D/Eレシオ(倍)*	0.9	0.8	△ 0.1
純有利子負債残高 **	4,262	4,416	+ 154

* オフバランスリース債務額 512億円（前年度期末 690億円）を含むD/Eレシオは0.8倍（前年度期末1.0倍）

** 純有利子負債残高 ＝ 有利子負債残高－（流動資産（現金及び預金＋有価証券））

©ANAHD2017

◎ 財政状態です。

◎ 総資産は2兆2,611億円となりました。

◎ 自己資本は、前年度期末から1,274億円増加の9,173億円となり、
自己資本比率は、5.1ポイント上昇して、40.6パーセントとなりました。

◎ 有利子負債は、新規借入や社債の発行を行った結果、
228億円増加の7,267億円となり、デット･エクイティ･ レシオは、0.8倍となりました。

◎ 6ページをご覧ください。

連結決算概要

キャッシュフロー 単位:億円

	FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	2,158	1,713	△ 445
投資キャッシュフロー	△ 1,472	△ 1,725	△ 252
財務キャッシュフロー	△ 832	31	+ 864
現金及び現金同等物の増減額	△ 145	12	+ 157
現金及び現金同等物の期首残高	2,089	2,651	+ 12
現金及び現金同等物の期末残高	1,944	2,664	
減価償却費	1,015	1,039	+ 24
設備投資額 (固定資産のみ)	2,408	2,016	△ 392
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く)	676	52	△ 623
EBITDA (営業利益+減価償却費)	2,183	2,341	+ 158
EBITDAマージン(%)	15.9	17.6	+ 1.6

©ANAHD2017

◎ キャッシュフローです。

◎ 営業キャッシュフローは、1,713億円の収入、
投資キャッシュフローは、1,725億円の支出、
財務キャッシュフローは、31億円の収入となりました。

◎ 3ヶ月超の定期･譲渡性預金の資金移動を除いた実質フリーキャッシュフローは、
前年同期から623億円減少して、52億円の収入となりました。
前年との比較では、法人税の支払い増加や、
航空機のセールス･アンド･リースバックに伴う、資産売却収入の差異が影響しています。

◎ 7ページをご覧ください。

連結決算概要

セグメント別実績　単位：億円

		FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年差	FY2016 第3四半期	前年差
売上高	航空事業	11,842	11,576	△ 265	3,885	△ 76
	航空関連事業	1,730	1,925	+ 194	647	+ 61
	旅行事業	1,293	1,220	△ 73	395	△ 13
	商社事業	1,084	1,033	△ 50	344	△ 23
	報告セグメント計	15,950	15,755	△ 194	5,272	△ 50
	その他	245	251	+ 6	84	+ 1
	調整額	△ 2,505	△ 2,689	△ 184	△ 889	△ 60
	合計（連結）	13,690	13,317	△ 372	4,467	△ 110
営業利益	航空事業	1,186	1,216	+ 30	368	△ 5
	航空関連事業	△ 38	90	+ 129	37	+ 119
	旅行事業	42	32	△ 9	12	△ 1
	商社事業	44	38	△ 5	12	△ 1
	報告セグメント計	1,234	1,378	+ 144	430	+ 109
	その他	11	11	△ 0	3	△ 1
	調整額	△ 78	△ 87	△ 8	△ 28	△ 1
	合計（連結）	1,167	1,302	+ 134	406	+ 106

©ANAHD2017

◎ セグメント別の実績です。

◎ 航空事業に加えて、航空関連事業も増益となりました。

◎ 昨年度 第3四半期において、
パイロット訓練会社である米国パンナム社の「のれん」を一括償却したことも影響しており、
営業利益は約130億円の増加となりました。

◎ 旅行事業と商社事業については、減益となりました。

◎ 続きまして、航空事業の詳細についてご説明します。
10ページをご覧ください。

Intentionally Blank

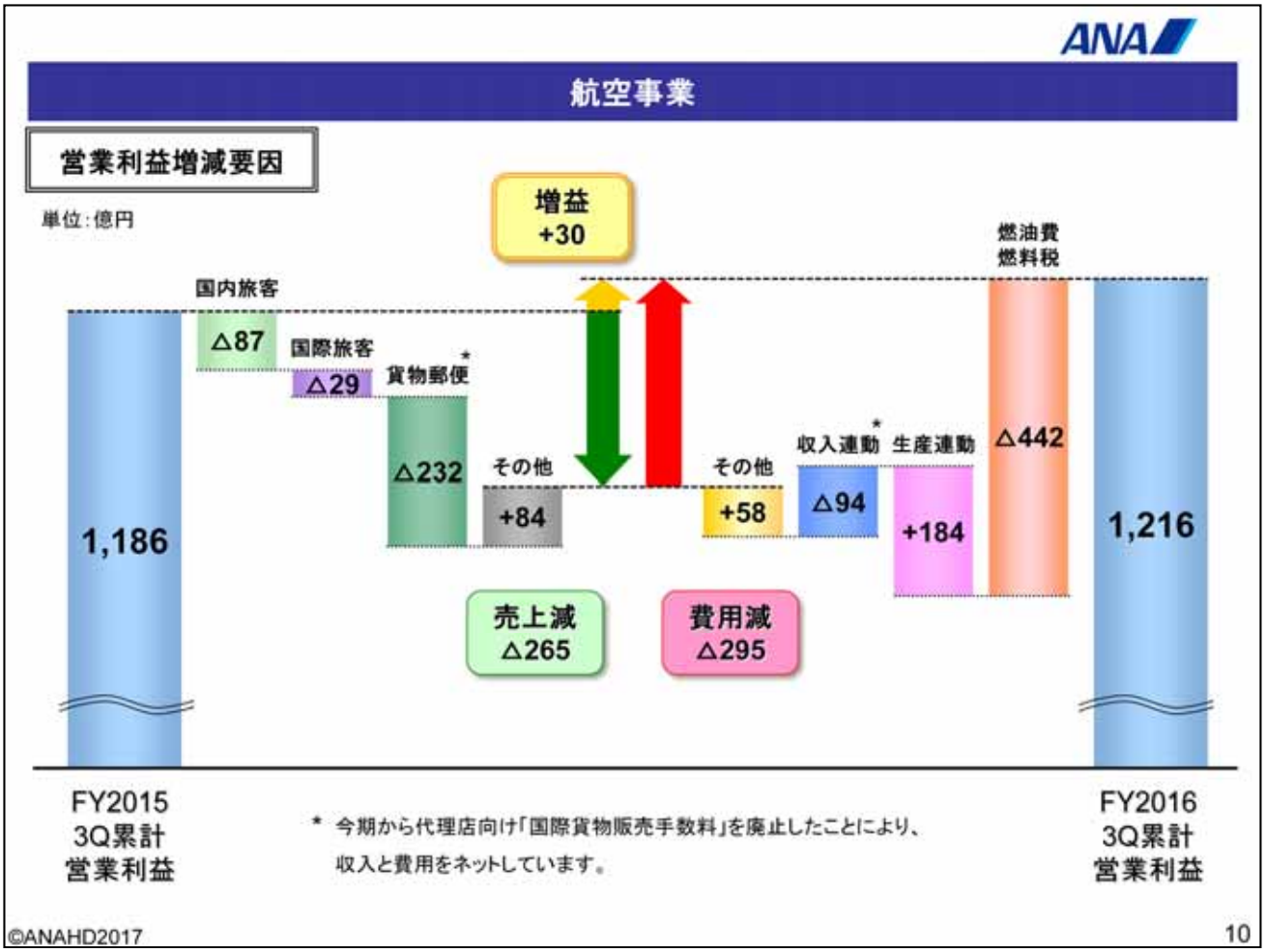
航空事業

収入・費用

単位：億円

		FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年差	FY2016 第3四半期	前年差
売上高	国内線旅客	5,289	5,201	△ 87	1,727	△ 29
	国際線旅客	3,913	3,884	△ 29	1,292	△ 24
	貨物郵便	1,206	973	△ 232	364	△ 52
	その他	1,433	1,517	+ 84	500	+ 29
	合計	11,842	11,576	△ 265	3,885	△ 76
営業費用	燃油費・燃料税	2,485	2,042	△ 442	680	△ 124
	空港使用料	875	858	△ 16	287	△ 3
	航空機材賃借費	709	741	+ 32	246	△ 0
	減価償却費	965	991	+ 26	340	+ 13
	整備部品・外注費	766	821	+ 55	306	+ 42
	人件費	1,335	1,374	+ 39	458	△ 6
	販売費	800	684	△ 115	233	△ 37
	外部委託費	1,388	1,492	+ 103	505	+ 32
	その他	1,328	1,351	+ 22	457	+ 12
	合計	10,655	10,359	△ 295	3,516	△ 70
営業利益	営業利益	1,186	1,216	+ 30	368	△ 5
	EBITDA (営業利益+減価償却費)	2,151	2,208	+ 56	709	+ 7
	EBITDAマージン(%)	18.2	19.1	+ 0.9	18.3	+ 0.6

©ANAHD2017



◎ 航空事業における営業利益の、前年同期比較です。

◎ 売上高は、265億円の減少となりました。
国際線事業における燃油サーチャージ収入の減少と、
円高に伴う、外貨収入の円建て換算額の減少が影響しました。

◎「その他」に含まれるバニラエアの収入は、前年と同水準になりました。

◎ 今年度から、代理店向けの「国際貨物販売手数料」を廃止したことにより、
収入と費用をネットすることで、前年同期に計上していた約130億円が減収となりました。

◎ 営業費用は、295億円の減少となりました。
事業規模の拡大に伴い生産連動費用は増加しましたが、燃油費は大きく減少しました。

◎ 以上の結果、営業利益は30億円増加して、1,216億円となりました。

◎ 12ページをご覧ください。

航空事業

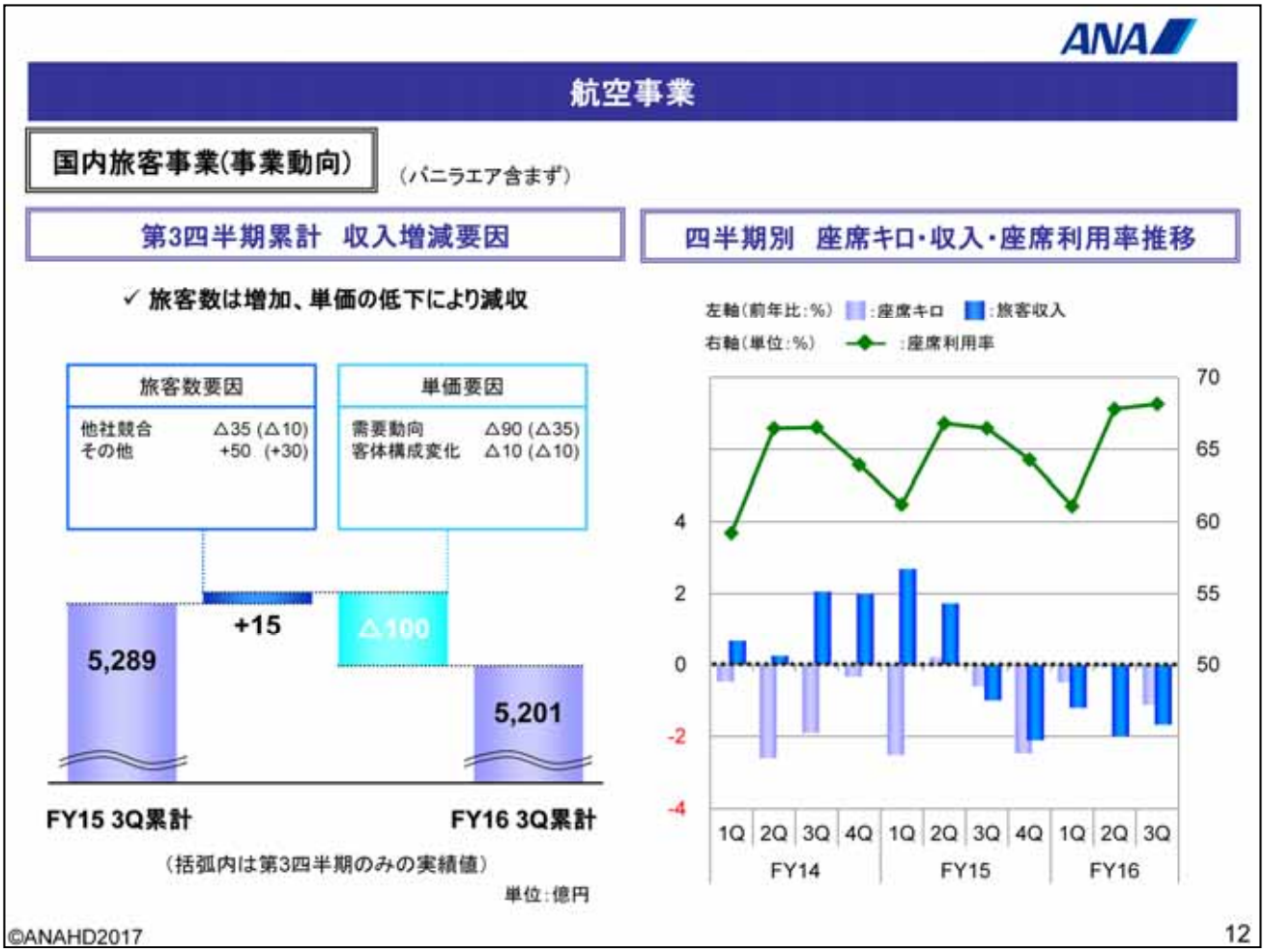
国内旅客事業（実績）

	FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年比(%)	FY2016 第3四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	45,207	44,958	△ 0.5	14,733	△ 1.1
旅客キロ（百万）	29,334	29,566	+ 0.8	10,039	+ 1.4
旅客数（千人）	32,562	32,645	+ 0.3	11,125	+ 1.0
座席利用率（%）	64.9	65.8	+ 0.9*	68.1	+ 1.7*
旅客収入（億円）	5,289	5,201	△ 1.7	1,727	△ 1.7
ユニットレベニュー（円）（旅客収入/座席キロ）	11.7	11.6	△ 1.1	11.7	△ 0.6
イールド（円）（旅客収入/旅客キロ）	18.0	17.6	△ 2.4	17.2	△ 3.0
単価（円）（旅客収入/旅客数）	16,244	15,934	△ 1.9	15,524	△ 2.7

* 座席利用率のみ前年差

（バニラエア含まず）

©ANAHD2017



◎ 国内旅客の状況です。

◎ 左の図は、第3四半期累計の減収額、87億円の要因分析です。

◎ 旅客数要因では、他社との競合があるなかで、
低需要便への対策として、プロモーション運賃を積極的に展開したことにより、
15億円の増収となりました。

◎ 一方、単価要因では、100億円の減収となりました。

◎ 右の図、及び11ページでご確認いただける通り、
第3四半期における座席利用率は大きく向上しました。
なお、熊本地震による影響は、上期を以って収束しています。

◎ 14ページをご覧ください。

航空事業

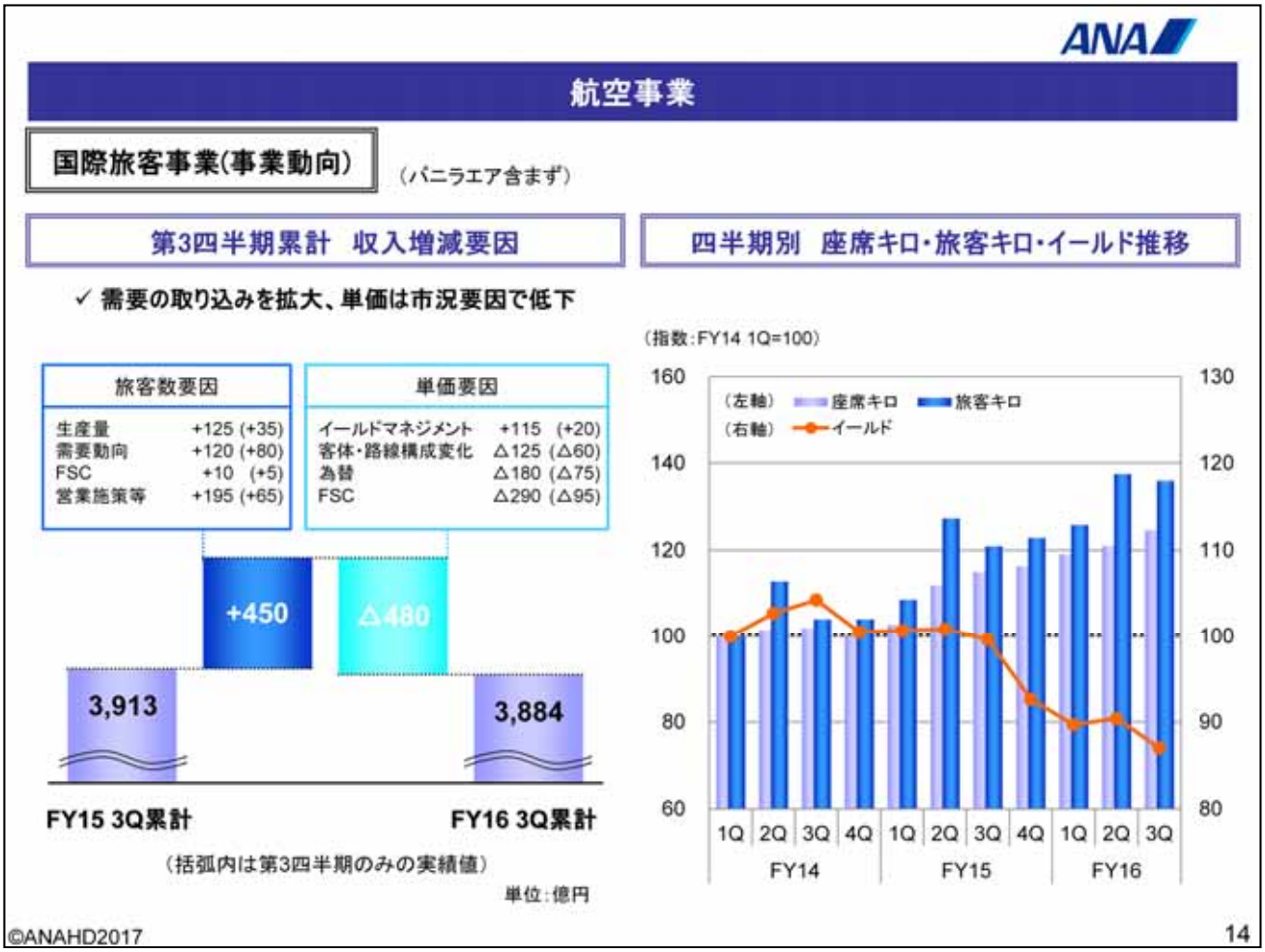
国際旅客事業（実績）

	FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年比(%)	FY2016 第3四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	40,441	44,751	+ 10.7	15,292	+ 8.4
旅客キロ（百万）	30,228	33,825	+ 11.9	11,516	+ 12.4
旅客数（千人）	6,054	6,751	+ 11.5	2,271	+ 14.0
座席利用率（%）	74.7	75.6	+ 0.8*	75.3	+ 2.7*
旅客収入（億円）	3,913	3,884	△ 0.7	1,292	△ 1.8
ユニットレベニュー（円）（旅客収入/座席キロ）	9.7	8.7	△ 10.3	8.4	△ 9.4
イールド（円）（旅客収入/旅客キロ）	12.9	11.5	△ 11.3	11.2	△ 12.7
単価（円）（旅客収入/旅客数）	64,637	57,531	△ 11.0	56,896	△ 13.9

* 座席利用率のみ前年差

（バニラエア含まず）

©ANAHD2017

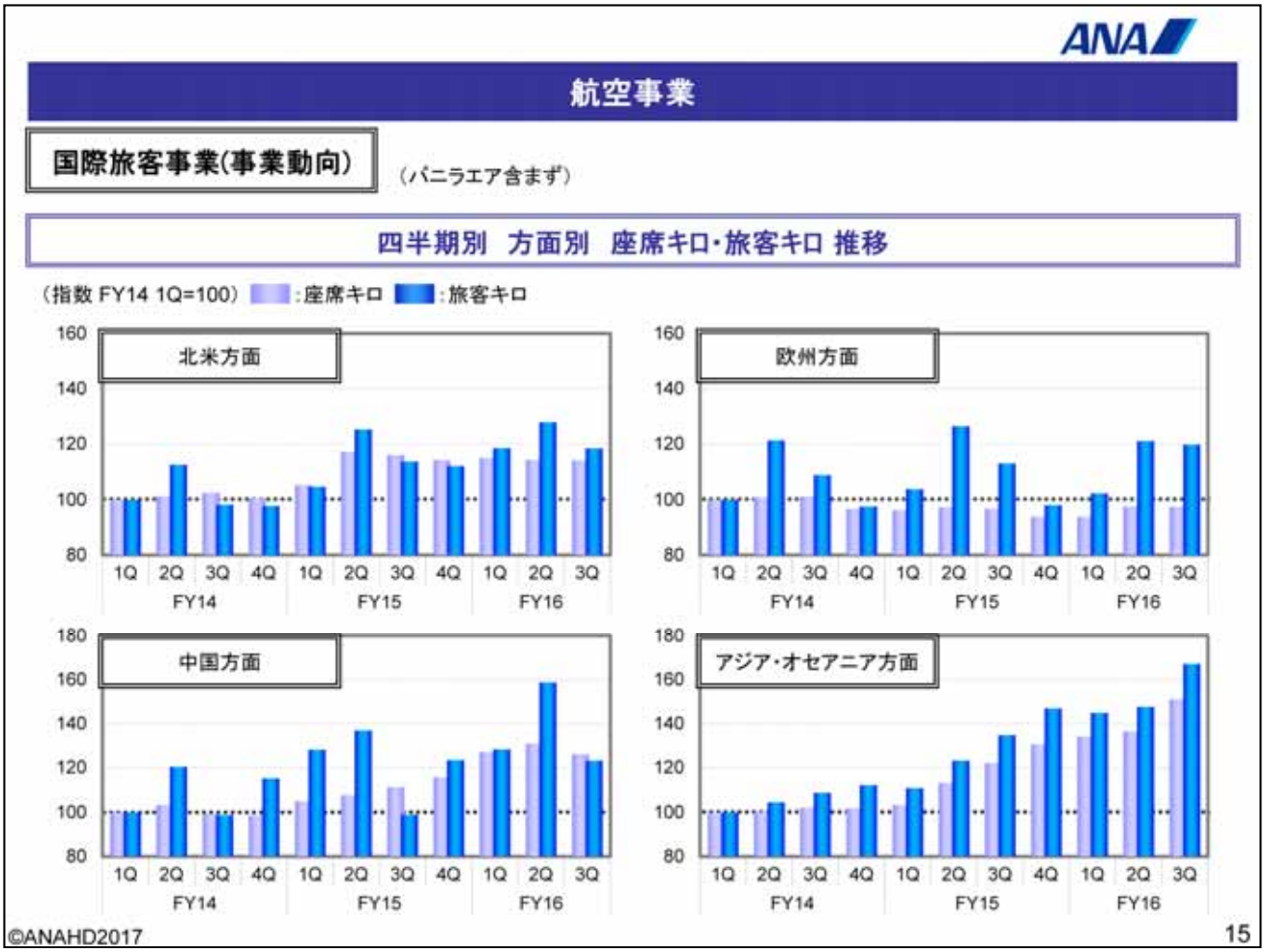


◎ 国際旅客の状況です。左の図をご覧ください。

◎ 旅客数要因では、日本発のみならず、海外発の需要を幅広く取り込んだことで、
450億円の増収となりました。

◎ 単価要因では、イールドマネジメントの効果を得ていますが、
市況の変動による影響が大きく、480億円の減収となりました。

◎ 15ページをご覧ください。



◎ 方面別の供給と需要の推移です。

◎ 第3四半期においても、全方面にわたって日本発の業務渡航需要は堅調に推移しました。

◎ 昨年10月30日より就航した羽田ーニューヨーク線、シカゴ線の効果もあり、
北米方面は好調な水準を維持しました。

◎ 欧州方面では、テロの影響によって減退した日本発レジャー需要が、
依然として回復途上にありますが、海外での販売を積極的に推進することで、
当該事象による影響を最小限に留めました。

◎ 中国方面については、訪日需要が拡大するなかで、他社に生産調整の動きもあり、
一昨年の秋以降に拡がった需給ギャップが、縮小に転じています。
当社グループでは、戦略的なイールドマネジメントにより、
需要の取り込みを強化しました。

◎ アジア・オセアニア方面では、新規路線の開設や既存路線の増便が、
日本発と海外発、双方の需要拡大につながりました。

◎ 続きまして、21ページをご覧ください。

Intentionally Blank

航空事業

国内貨物事業（実績）

	FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年比(%)	FY2016 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	1,421	1,366	△ 3.9	444	△ 5.0
有償貨物トンキロ（百万）	363	353	△ 2.8	127	△ 4.1
貨物輸送重量（千トン）	360	347	△ 3.5	125	△ 4.8
貨物重量利用率（%）	25.6	25.9	+ 0.3*1	28.7	+ 0.3*1
貨物収入（億円）*2	244	236	△ 3.2 (△ 2.0)	85	△ 3.5 (△ 2.4)
ユニットレベニュー（円）*2 （貨物収入/有効貨物トンキロ）	17.2	17.3	+ 0.7 (+ 2.0)	19.2	+ 1.5 (+ 2.7)
イールド（円）*2 （貨物収入/有償貨物トンキロ）	67.2	66.9	△ 0.4 (+ 0.9)	66.9	+ 0.6 (+ 1.8)
重量単価（円/kg）*2 （貨物収入/貨物輸送重量）	68	68	+ 0.3 (+ 1.6)	68	+ 1.4 (+ 2.6)

*1 貨物重量利用率のみ前年差
*2 括弧内は、「国際貨物販売手数料」の廃止による影響を除いた場合

©ANAHD2017

Intentionally Blank

航空事業

国際貨物事業（実績）

	FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年比(%)	FY2016 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	4,536	4,937	+ 8.8	1,669	+ 5.8
有償貨物トンキロ（百万）	2,642	3,101	+ 17.4	1,101	+ 17.2
貨物輸送重量（千トン）	611	715	+ 17.1	258	+ 20.3
貨物重量利用率（%）	58.2	62.8	+ 4.6*1	66.0	+ 6.4*1
貨物収入（億円）*2	883	675	△ 23.6 (△10.4)	257	△ 14.4 (+ 0.9)
ユニットレベニュー（円）*2 （貨物収入/有効貨物トンキロ）	19.5	13.7	△ 29.8 (△ 17.7)	15.4	△ 19.0 (△ 4.6)
イールド（円）*2 （貨物収入/有償貨物トンキロ）	33.5	21.8	△ 34.9 (△ 23.6)	23.4	△ 26.9 (△ 13.9)
重量単価（円/kg）*2 （貨物収入/貨物輸送重量）	145	94	△ 34.7 (△ 23.5)	100	△ 28.8 (△ 16.1)

*1 貨物重量利用率のみ前年差

*2 括弧内は、「国際貨物販売手数料」の廃止による影響を除いた場合

©ANAHD2017

航空事業

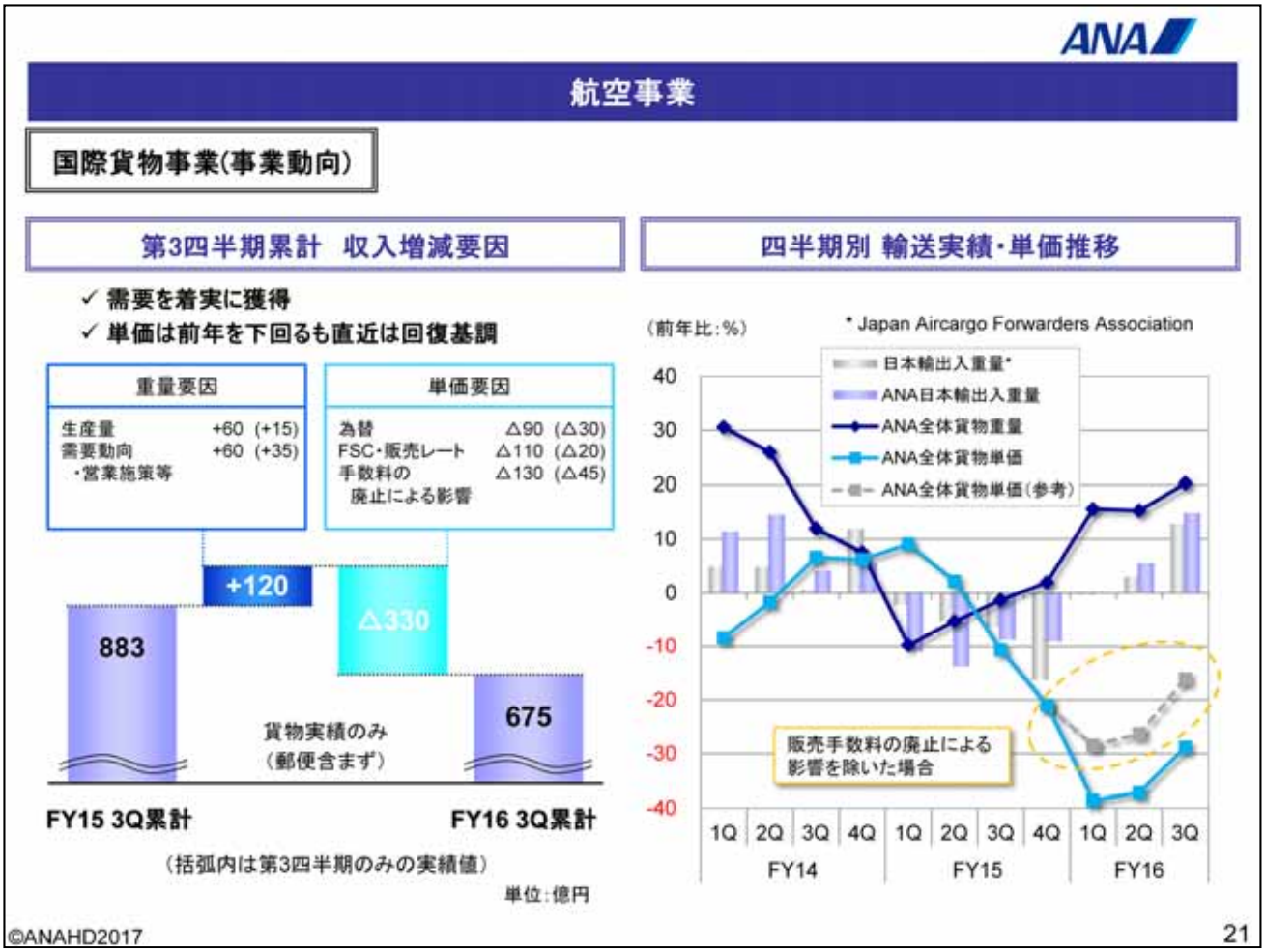
【参考】国際フレイター（実績）

本表のデータは、P.19記載実績の内数

	FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年比(%)	FY2016 第3四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	953	923	△ 3.1	295	△ 9.7
有償貨物トンキロ（百万）	534	553	+ 3.4	189	+ 1.1
貨物輸送重量（千トン）	269	290	+ 7.7	102	+ 9.4
貨物重量利用率（%）	56.1	59.9	+ 3.8*	63.9	+ 6.9*
貨物収入（億円）	321	203	△ 36.6	70	△ 33.2
ユニットレベニュー（円）（貨物収入/有効貨物トンキロ）	33.7	22.1	△ 34.5	24.0	△ 26.0
イールド（円）（貨物収入/有償貨物トンキロ）	60.1	36.9	△ 38.7	37.5	△ 34.0
重量単価（円/kg）（貨物収入/貨物輸送重量）	119	70	△ 41.1	69	△ 39.0

* 貨物重量利用率のみ前年差

©ANAHD2017



◎ 国際貨物の状況です。左の図をご覧ください。

◎ 重量要因では、三国間貨物の拡大に加え、
輸出入貨物の取り込みが奏功したことから、120億円の増収となりました。

◎ 単価要因では、円高の影響、燃油サーチャージ収入の減少、
及び、販売手数料の廃止等に伴い、330億円の減収となりました。

◎ 右の図では、輸出入貨物の総需要と、当社グループ実績の推移をお示ししています。
総需要の回復が強まるなかで、市場全体の伸びを上回る重量を獲得しました。

◎ 貨物販売手数料の廃止による影響を除いた実質的な収入は、
第3四半期において、前年を上回りました。

◎ 最後に、23ページをご覧ください。

Intentionally Blank

航空事業

LCC事業（バニラエア）

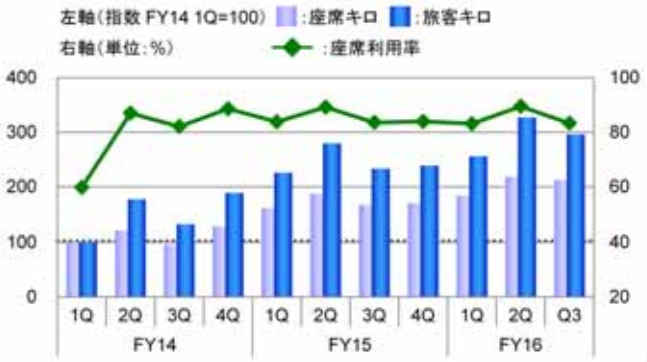
	FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年比(%)	FY2016 第3四半期	前年比(%)
座席キロ（百万）	2,551	3,045	+ 19.4	1,051	+ 27.2
旅客キロ（百万）	2,185	2,602	+ 19.1	876	+ 26.8
旅客数（千人）	1,297	1,532	+ 18.1	515	+ 28.8
座席利用率（%）	85.7	85.4	△ 0.2*	83.3	△ 0.3*

国内線・国際線合計　* 座席利用率のみ前年差

運用航空機数	エアバスA320-200型機 ： 11機 （2016年度 第3四半期末 現在）

【新規就航路線（2016年度 下期）】

- 東京（成田） ー セブ線　12/25 就航
- 東京（成田） ー 大阪（関西）線　2/18 就航予定
- 東京（成田） ー 函館線　2/19 就航予定
- 大阪（関西） ー 函館線　3/18 就航予定
- 大阪（関西） ー 奄美大島線　3/26 就航予定



©ANAHD2017
23

◎ バニラエアの実績です。

◎ 第3四半期累計の座席利用率は、85.4パーセントとなりました。

◎ 今年度は、就航路線を徐々に拡大する中で、
競争環境、需要動向に応じて、柔軟な運賃設定を行い、
前年並みの高い利用率を確保してきました。

◎ 引き続き、新たな需要の創出と定着を図った上で、
イールドの向上を追求していきます。

◎ 私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

航空事業以外のセグメント

セグメント別実績

単位：億円

	航空関連事業			旅行事業		
	FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年差	FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年差
売上高	1,730	1,925	+ 194	1,293	1,220	△ 73
営業利益	△ 38	90	+ 129	42	32	△ 9
減価償却費	40	36	△ 3	0	1	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	1	127	+ 125	43	33	△ 9
EBITDAマージン(%)	0.1	6.6	+ 6.5	3.3	2.7	△ 0.6

	商社事業			その他		
	FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年差	FY2015 第3四半期累計	FY2016 第3四半期累計	前年差
売上高	1,084	1,033	△ 50	245	251	+ 6
営業利益	44	38	△ 5	11	11	△ 0
減価償却費	7	8	+ 1	1	1	△ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	51	47	△ 4	13	12	△ 0
EBITDAマージン(%)	4.8	4.6	△ 0.2	5.3	5.0	△ 0.3

©ANAHD2017

燃油・為替ヘッジの進捗状況

【燃油ヘッジ　基本方針】
・国内線消費量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）
・国際線消費量は原則としてヘッジ対象外（燃油サーチャージ収入で対応）

(US$/bbl)	3Q累計 実績	4Q 前提値
ドバイ原油	44.9	45
ｼﾝｶﾞﾎﾟｰﾙｹﾛｼﾝ	56.4	58

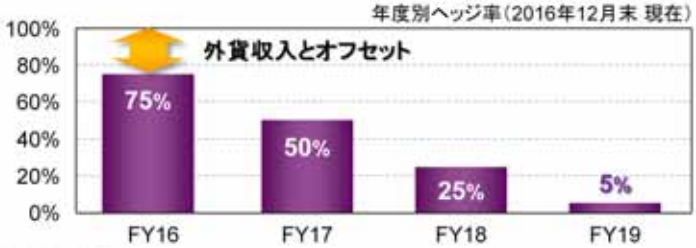
年度別ヘッジ率（2016年12月末 現在）

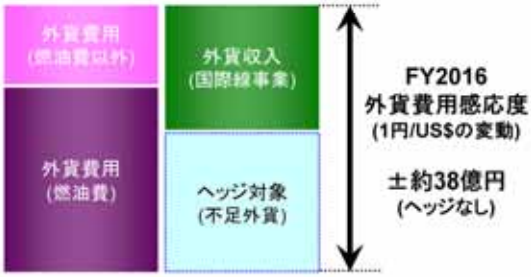
【為替ヘッジ　基本方針】
・不足する外貨量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）

(円/US$)	3Q累計 実績	4Q 前提値
ドル円レート	106.6	100

※ヘッジ率は外貨費用（燃油費）に対する進捗

年度別ヘッジ率（2016年12月末 現在）





©ANAHD2017

Intentionally Blank

補足資料

©ANAHD2017

補足資料

運用航空機数

	FY2015 期末	FY2016 第3四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
Boeing 777-300ER	22	22	—	16	6
Boeing 777-300	7	7	—	7	—
Boeing 777-200ER	12	12	—	6	6
Boeing 777-200	16	14	△ 2	12	2
Boeing 787-9	11	21	+ 10	21	—
Boeing 787-8	35	36	+ 1	31	5
Boeing 767-300ER	25	25	—	13	12
Boeing 767-300	13	12	△ 1	12	—
Boeing 767-300F	4	4	—	—	4
Boeing 767-300BCF	8	8	—	8	—
Airbus A321-200	0	3	+ 3	—	3
Airbus A320-200neo	0	1	+ 1	1	—
Airbus A320-200	18	21	+ 3	10	11
Boeing 737-800	36	36	—	24	12
Boeing 737-700ER	2	0	△ 2	—	—
Boeing 737-700	7	7	—	7	—
Boeing 737-500	20	18	△ 2	18	—
Bombardier DHC-8-400 (Q400)	21	21	—	20	1
合 計	**257**	**268**	**+ 11**	**206**	**62**

バニラエアが運用する A320-200 を含む（当第3四半期末 11機、前年度期末　8機）
グループ外にリースしている機数を除く　（当第3四半期末 18機、前年度期末 16機）

補足資料

国際旅客　方面別実績（構成比）

		FY2016 第3四半期累計 構成比	前年差	FY2016 第3四半期 構成比	前年差
旅客収入	北米	31.6	△ 1.0	30.7	△ 2.1
	欧州	19.0	△ 0.4	18.7	△ 0.3
	中国	13.9	△ 1.5	12.4	△ 0.2
	アジア・オセアニア	30.6	+ 2.3	33.2	+ 2.3
	リゾート	5.0	+ 0.7	4.9	+ 0.2
座席キロ	北米	32.9	△ 3.0	32.0	△ 3.3
	欧州	16.2	△ 1.8	16.0	△ 1.2
	中国	11.8	+ 0.8	11.3	+ 0.5
	アジア・オセアニア	34.0	+ 3.8	35.7	+ 4.4
	リゾート	5.0	+ 0.3	5.0	△ 0.4
旅客キロ	北米	33.5	△ 1.8	32.0	△ 2.5
	欧州	16.4	△ 2.0	16.8	△ 1.0
	中国	9.9	+ 0.1	8.8	+ 0.8
	アジア・オセアニア	34.3	+ 3.5	36.6	+ 3.4
	リゾート	5.8	+ 0.2	5.8	△ 0.8

（バニラエア含まず）

©ANAHD2017

補足資料

国際貨物　方面別実績（構成比）

		FY2016 第3四半期累計 構成比	前年差	FY2016 第3四半期 構成比	前年差
貨物収入	北米	26.7	+ 2.5	28.9	+ 4.9
	欧州	15.6	+ 1.6	16.6	+ 1.9
	中国	28.9	△ 5.7	26.6	△ 8.7
	アジア・オセアニア	23.1	+ 1.6	22.2	+ 1.5
	その他	5.7	△ 0.0	5.6	+ 0.3
有効貨物トンキロ	北米	36.4	△ 0.9	36.2	△ 1.4
	欧州	16.2	△ 1.5	16.0	△ 1.0
	中国	16.7	△ 0.1	16.3	△ 0.5
	アジア・オセアニア	27.2	+ 2.8	28.2	+ 3.3
	その他	3.6	△ 0.4	3.3	△ 0.5
有償貨物トンキロ	北米	37.4	△ 1.5	36.5	△ 1.9
	欧州	20.8	△ 1.9	21.0	△ 2.0
	中国	14.2	+ 0.9	14.8	+ 1.0
	アジア・オセアニア	24.2	+ 3.2	24.4	+ 3.5
	その他	3.4	△ 0.7	3.2	△ 0.6

©ANAHD2017

ANAグループが目指すもの

グループ経営理念

安心と信頼を基礎に

世界をつなぐ心の翼で

夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である

私たちはお互いの理解と信頼のもと
確かなしくみで安全を高めていきます

私たちは一人ひとりの責任ある
誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、

お客様満足と価値創造で

世界のリーディングエアライングループを目指します

©ANAHD2017

免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社の主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

ご清聴ありがとうございました。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

http://www.ana.co.jp/group/investors

［日本語］　株主・投資家情報 → IR資料室 → 決算説明会資料

ANAホールディングス株式会社　財務企画・IR部

Eメール　：　ir@anahd.co.jp